

	事業概要	すがた	目標	実績	評価	課題等	見直しと今後の改善策
健康教室事業	<p>① スタイルアップ教室 →体調改善のための体にやさしい簡単な体操を学び、運動習慣の定着と生活習慣病の予防、スタイルアップを目指し実施しました。講師:パーソナルトレーナー</p> <p>② 健康講話・運動教室 →運動するきっかけとして、健康講話・運動教室を実施しました。H30年度よりタグフィットネス(運動増進プログラム)事業を実施し、活動計による、自身の体力にあった運動の実践を提案しています。</p> <p>③ 大人の健康料理教室 →栄養バランスのよい簡単料理を覚えながら、普段の食生活のチェックと健康的な生活を送るきっかけづくりとしました。講師:村管理栄養士</p> <p>④ 各地区運動・栄養教室 →身近な場所での開催により気軽に参加できること目指し、地区公民館等でウォーキング教室や栄養教室を開催しました。日常的な健康のきっかけづくりとなりましたが、R1年度より、タグフィットネス・スタイルアップ教室に統合しました。</p>	<p>スタイルアップ教室 R1年度 9回 延べ190人 R4年度 10回 延べ155人 R2年度 10回 延べ206人 R5年度 10回 延べ225人 R3年度 8回 延べ157人 R6年度 10回 延べ242人</p> <p>健康講話・運動教室 R1年度 8回 延べ 82人(タグフィットネス事業) R2年度 10回 延べ 124人(") R3年度 6回 延べ 66人(") R4年度 6回 延べ 61人(繰り返し) R5年度 6回 延べ 148人(") R6年度 12回 延べ 107人(")</p> <p>春夏秋冬 健康チャレンジ!プロジェクト R1年度 4回 延べ222人 R4年度 4回 延べ84人 R2年度 2回 延べ77人 R5年度 4回 延べ161人 R3年度 0回 R6年度 4回 延べ141人</p> <p style="text-align: right;">実績より</p>	参加率の増加	変化なし	B	<p>・各教室とも、リピーターが多く、定着がみられるものの、新規の参加者が少ない状況です。</p> <p>・女性の参加率が高く、男性の参加率は増加に至っていません。</p> <p>・40～50代の働き盛り世代へのアプローチが課題です。</p>	・参加しやすい教室の工夫や新しい周知方法の検討をしながら、継続実施します。
がん検診事業	<p>① 受けやすい検診体制等の企画検討 →大腸がん検診について検診受診機会を増やすため、乳がんマンモグラフィ検診とのセット検診を実施しました。また、集団女性がん検診では会場内に託児体制を整えたり、担当医師を含めた女性スタッフでの検診運営につとめました。</p> <p>② 乳がんマンモグラフィ検診の初回対象者へ受診勧奨個別通知 →検診の対象となる初年度に個別通知にてお知らせしています。また、検診の対象のうち、最終年度の方にも個別通知でお知らせし、受診勧奨するとともに、自己検診法の啓発をおこないました。</p> <p>③ 子宮がん検診の受診率向上のためチラシの配布 →節目年齢となる年度に個別通知にてお知らせし、受診勧奨しました。また、好発年齢である若年層への受診勧奨をおこなうため、保育園の協力を得て、オクレンジャーにて健診の周知を保護者に対し行いました。</p> <p>④ がん検診講演会の実施 衛生自治推進協議会役員や一般の方向けにがん検診の講演会を実施しました。</p> <p>⑤ 要精密検査者へ受診勧奨 →精密検査が必要と判定された人には、電話や個別面談で説明し、早期の精密検査受診を勧奨しました。検診3か月経過後未受診の場合は通知や電話にて再度受診勧奨を実施しました。</p>	<p style="text-align: center;">がん検診受診者数</p> <p style="text-align: center;">成果説明より</p>	受診率の向上 精密検査受診率の向上	増加	A	<p>・受診率は年々上がってきています。</p> <p>・検診の重要性の啓発や周知が不足していますが、胃がん検診・大腸がん検診は年代別など対象者に合わせた受診勧奨方法ができていません。</p> <p>・精密検査受診率については、がん検診の種類や年度により差はあるものの、精密検査が必要なすべての者が精密検査を受けるまでには至っていません。</p> <p>・精密検査の案内時に対象者の既往歴やライフスタイルにあわせた医療機関の紹介をおこなう等、精密検査に対する不安の解消につとめています。</p>	<p>・受診率向上への確実な対策は確立されていないことから、有効な周知方法など随時改善し、継続実施していきます。</p> <p>・精密検査が必要な者へ、面談や電話などできめ細やかな説明を実施していきます。</p>
健康相談		<p>① 看護職などが窓口となり必要ならば専門職へつなげる。 → 随時、看護師が相談に応じ、状況に応じて専門機関の紹介や、介護保険担当との連携をはかっています。</p>	-	-	-		・継続実施していきます。
ずくだせカフェ		<p>① 保健行政を住民に知らせていく。 ② 住民の意見要望を聞き反映する。 →年1回、ずくだせカフェを開催し、意見交換や意見聴取を行い、提案いただいた事項を保健事業に反映しています。</p> <p>【テーマ】 H28年度 ロコモ H29年度 乳がん H30年度 認知症 R1年度 人生会議 R2年度 フレイル R5年度 12年後の理想の自分 R6年度 「社会参加」ずくってどうしたらでるの？」</p>	-	-	-	・参加頂いた方には好評で、様々なご提案をいただいています。	・時間帯等参加しやすい工夫を行いながら継続実施します。
広報紙の掲載		<p>① 毎月発行の広報に健康情報を掲載。 →各種健(検)の情報提供の他、健康に関する情報について発信しています。</p>	-	-	-		・情報伝達手段の追加としてホームページの活用もはかります。
その他							